

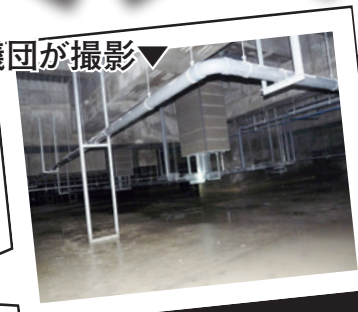
豊洲  
新市場

東京都の説明はウソだった

# 土壌汚染対策に

# 大欠陥

共産党都議団が撮影

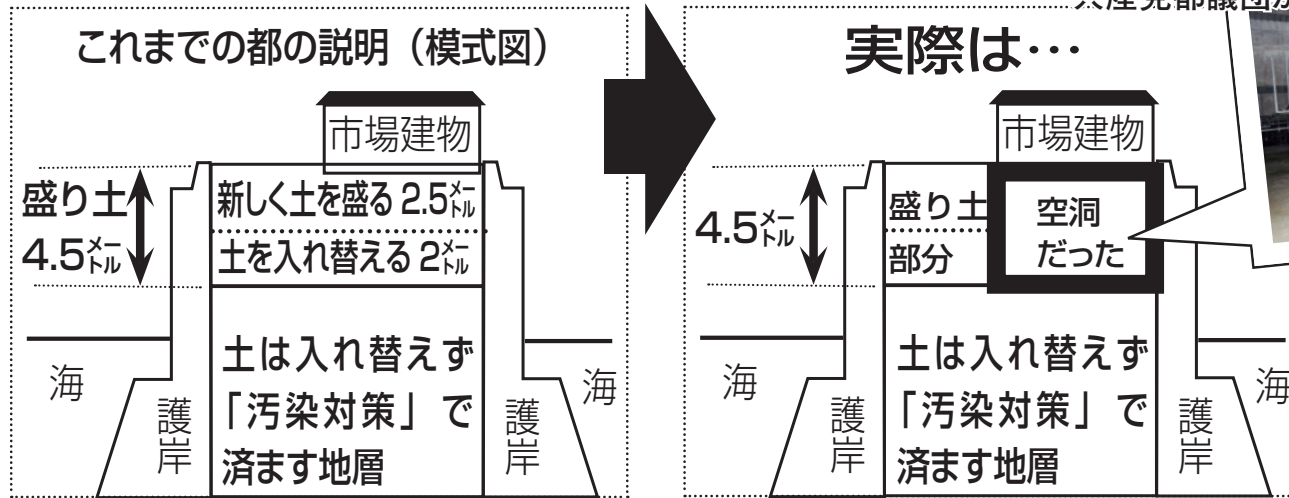


## 移転中止をふまえた抜本的検討を

虚偽報告で都民を欺いていたことに強い怒りを感じます。日本共産党は食の安全安心の確保を最優先させ、移転中止を含め抜本的検討を実現させるため全力をあげます。



提言の全文は↑



# 共産党都議団の調査で判明

東京都が築地市場の移転先としている豊洲新市場で、土壌汚染対策として厚さ4.5メートルの盛り土を全面にわたって行う予定が、主な建物の地下の地盤で行われていなかったことが明らかになりました。日本共産党都議団は9月7日に、水産卸売場棟の現地調査で確認しました。都議団は重大問題として12日、「徹底究明を求める提言」を発表し知事に申し入れました。

豊洲新市場予定地は高濃度の発がん性物質ベンゼンや猛毒のシアン化合物、ヒ素などが検出。都の専門家会議は2008年、汚染土壌を掘削し、厚さ4.5メートルにわたり盛り土するなどの土壌汚染対策をまとめ、858億円をかけて工事を実施しました。

ところが、**上図のように**党都議団の調査では、新市場の建物の下で盛り土が行われておらず、地下空間となり、底面には碎石層や薄いコンクリートが敷設されただけで、水がたまっていました。

提言は「建物の下の盛り土を行っていないのに、やっているとの虚偽の報告で都民をあざむいてきた」と厳しく批判。「食の安全・安心に関わる重大問題」だとして、徹底究明を求めるとともに、新市場施設の建物内の大気中でベンゼン汚染が確認された問題とあわせて、第三者の専門家を交えて検証するよう提起しました。



あぜ上三和子

都議会議員 (江東区選出)

あぜがみ・みわこ

# 日本共産党

東京民報  
ご意見・ご要望は 03-3370-0311、FAX 03-3370-0471  
2016年9月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。  
発行/東京民報社 (港区芝1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可